

ブラジル中銀は市場予想通り0.75%の利下げを決定

- ブラジル中銀は大方の市場予想通り、0.75%の利下げを決定。政策金利は史上最低の2.25%へ引き下げられる。
- ブラジル中銀は利下げ局面が概ね終了しつつあることを示唆。市場予想では年末までの金利据え置きの見方が大勢。
- ブラジルでは新型コロナの新規感染拡大が続く。コロナ問題を注視しながら、ブラジル中銀は慎重な金融政策運営へ。
- 低金利を受けてブラジル国内では株式への投資需要高まる。1-4月も株式型ファンドへの資金流入傾向が続く。

ブラジル中銀は0.75%の利下げを決定

ブラジル中銀は6月17日の金融政策委員会(COPOM)において、大方の市場予想通り、0.75%の利下げを決定しました。これにより政策金利の水準は史上最低水準を更新し、2.25%へ引き下げられました(図1)。

ブラジル中銀は声明文において、「残された金融緩和の余地は不透明だが小さいだろう」、「現時点で既に実施した金融緩和の規模はコロナ感染拡大による経済的影響と見合っていると判断している」と述べ、利下げ局面が概ね終了しつつあることを示唆しました。直近の市場予想では、ブラジル中銀の政策金利は年末まで2.25%で据え置かれるとの見方が大勢となっています。

コロナ問題を注視しながら慎重な金融政策運営へ

もっとも、ブラジルでの新型コロナウイルス問題は依然として予断を許さない状況にあり、6月17日の新規感染者数は3万2,188人、累積感染者数は95万5,377人へ拡大しました(図2)。コロナ感染と経済動向の変化を注視しながら、今後のブラジル中銀の金融政策運営は慎重な判断が下される可能性が高いとみられます。

低金利によりブラジル株式への投資需要高まる

また、ブラジル中銀による積極的な利下げを受けて、ブラジル国債の低金利化が進みつつあります(6月17日時点の2年国債利回りは3.70%)。

ブラジル国内では、ブラジル中銀の金融緩和と低水準の国債利回りが長期化する観測が増す中、高い投資リターンを求めて株式型ファンドへの資金流入が継続する傾向がみられます。2020年1-4月の株式型ファンドへの純資金流入額は年率換算値で1,383億レアル(約2.8兆円*)へ拡大し、債券代替の投資対象としてブラジル株式の投資需要が高まっていることが示されています(図3)。

(*)為替換算レート:1レアル=20円

図1:ブラジル中銀の政策金利の推移

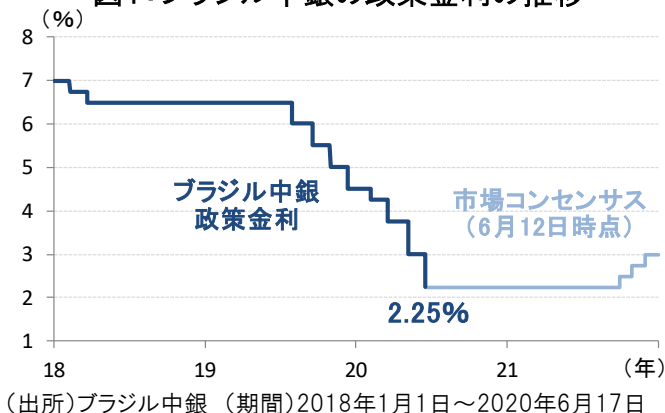


図2:ブラジルの新型コロナウイルス新規感染者数

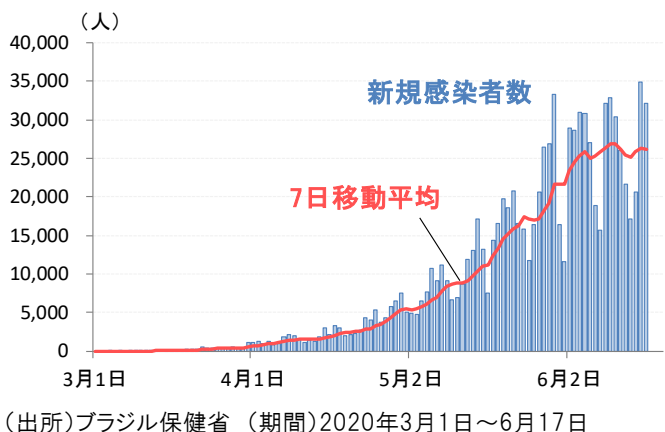
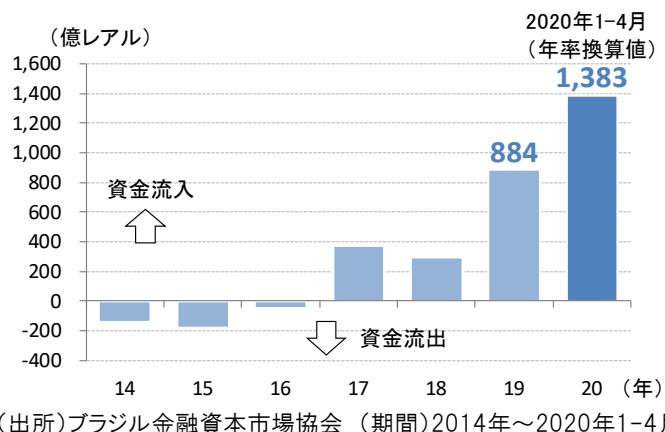


図3:ブラジル国内の株式型ファンドの資金フロー



●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。